

年	組	番	名前
---	---	---	----

# 思考実験 正しい判断ができるだろうか? ~バス路線新設を考える~

## Q1 バス路線新設をめぐる、はるの市の状況を確認してみよう。(→ p.37【II】)

【設定】あなたは「はるの市」で、市営バスの担当をしている職員です。

①はるの市の「若木地区」と「さくら野地区」には公共交通機関がない。「若木地区」には病院があり、通院する市民、とりわけ病状の重い病人や高齢者はタクシーを利用するしかなく、不便で困っている。

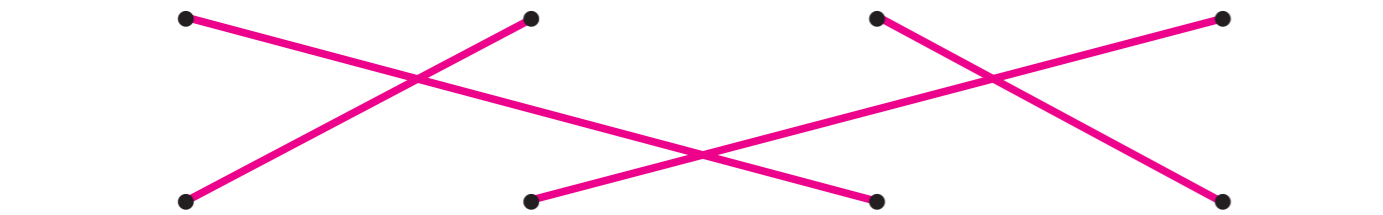
②そこで「若木地区」にバス路線の新設を計画し、市議会で予算が認められた。

③ところがそれを公表したところ、「さくら野地区」の住民からバス路線新設の要望が出た。「さくら野地区」には多くの住民が暮らしている。

④市議会で認められた予算は1路線分しかない。どちらの地区にバス路線を新設すべきだろうか。

(1) 次のはるの市民(A~Dさん)の意見は、どの哲学者の考えに近いだろうか。近い意見と考えを線でつなごう。(→ p.38【IV】)

ベンサム 功利主義 「最大多数の最大幸福」 (幸福の量の多さ) → p.29	J.S. ミル 功利主義 「高尚な快樂」 (質の高い幸福) → p.29	カント ドイツ観念論 「理性に基づく道徳法則」 (動機によさ) → p.28	アリストテレス 現実主義 「最高善」(美德) → p.24
-------------------------------------------------	-----------------------------------------------	-------------------------------------------------	-------------------------------------



バスがあったほうが便利だけど、自分は車を運転できる。高齢者が多い「若木地区」にバス路線を新設した方が、市全体の満足度は高まるだろう。	母は膝が悪く、週に2~3回は注射を打ちに病院に行かなければならない。母は車を運転できないので、はるの駅からバスで「若木地区」の病院に行けたら非常に助かる。	市長の言うように、人口の多い「さくら野地区」にバス路線を新設する方が、より多くの人の利便性を高められる。私も子どもとバスに乗って出かけた。	そもそも、病院に通院する市民が困っているからバス路線の新設を計画したのだから、困っている人を助けたいという本来の動機が重要だと思う。
Aさん	Bさん	Cさん	Dさん

(2) 市民(A~Dさん)や市長、財政担当者の声を踏まえて、論点を整理してみよう。

	若木地区に設置(人口100人、病院あり)	さくら野地区に設置(人口500人)
長所	(例) ・切実に必要としている通院者の助けとなる。	(例) ・人口が多いので、多くの市民が喜ぶ。 ・利用者が多く見込まれるので、赤字にならない。
短所	(例) ・通院者の多くは高齢者であり、無料パスを使うため赤字になってしまう。	(例) ・自家用車や自転車の利用が困難な通院者を助けることができない。

↑<解説>左ページの資料を参考に、書き出してみる。

## Q2 自分の意見をまとめ、他の人の意見も聞いてみよう。

(1) 理由と共に自分の意見を書いてみよう。

私は (例)若木 地区にバス路線を新設します。

なぜなら (例)若くて健康な人はこれまで通りほかの移動手段で移動することができます。

**市は、公共交通機関を切実に必要としている通院者を支えるべき**

↑<解説>この段階では、まずは自分の意見を率直に出してみる。そのうえで、自分の意見の根拠になるものとして、これまで学習した哲学者の思想を参考にできるとよい。

だからです。

(2) 他の人の意見を聞いて、考えたことを書いてみよう。

(例)さくら野地区に新設するという人からは、はるの市の財政を重視し、新設するバス路線が赤字になるのはよくないという意見が数多く挙がりました。確かに市の財政について考えることも重要なことだと思います。しかし、赤字にならず多くの市民が喜ぶからといって、従来の目的を変えて、若木地区からさくら野地区へとバス路線を変更するのはやはりよくないと思います。はるの市は利益を追求する企業ではありません。地方行政を担う地方自治体として、困っている市民を助けるという本来の目的と役割を果たすことを重視すべきです。

また、功利主義の観点から見ても、多くの市民の「バスに乗るかもしれない」という便利さから得られる幸福の「量」を重視するよりも、本当にバスが必要な人たちの幸福の「質」を大きく向上させることを重視する方が、市民全体の幸福を増大できると考えます。

<解説>(2)の段階では、これまで学習した哲学者や思想を活用したい。その際は、一人の哲学者、一つの思想にこだわらず、さまざまな考えを自分なりに融合させると説得力のある意見・理由になる。この例では、カントの「動機によさ」やアリストテレスの「美德」を融合させている。さらに功利主義の観点から、ベンサムの「幸福の量」とミルの「幸福の質」を比較させて、ミルの考えを自分の意見に取り入れている。